

三千院門跡



三千院は、傳教大師が東塔南谷に草庵を開き、円融房と称したのを起源とする。滋賀県東坂本の梶井に里坊が営まれ、平安後期、堀川天皇第二皇子・最雲法親王が入室され、明治維新まで皇族出身者が住持する宮門跡となる。以来、寺地の変遷を繰り返して明治維新後に大原に本坊を構える。大原の地は平安時代初期、慈覚大師円仁が中国五台山から伝えた五会念仏により声明梵唄の発祥の地となる。又、往生極楽を願う人々の隠棲の地として往生極楽院を中心に念仏聖による不断念仏・引声念仏が盛んに行われ天台浄土教の聖地となり、比叡山の西側に形成された一大文化圏の様相を見ることが出来る。近年極楽院の天井画が極彩色で復元され創建当時の極楽浄土が偲ばれる。

三千院門跡

住所／京都市左京区大原来迎院町540
電話／075-744-2531
拝観時間／12月～2月 8:30～16:30 3月～11月 8:30～17:00
拝観料／一般700円(団体30名以上600円)